

**令和元年度幼児期からの運動習慣アップ支援事業
保育現場における「運動遊び」の取組に関する実態調査実施報告書（概要版）**

1 目的

新潟県では楽しく体を動かす「運動遊び」の普及啓発を通じ、どこに住んでいても、子どもの誰もが幼児期に身に付けておくことが望まれる多様な動きを経験でき、発達段階に応じた適切な援助を受けられる環境の整備を目指し、「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」に取り組んでいる。「運動遊び」の取組の実態について、アンケート調査を実施し、本県の幼児期の「運動遊び」の普及、啓発等を推進することを目的とする。

2 調査期間 令和元年8月～12月

3 調査対象及び回答数（粟島浦村を除く県内29市町村）

調査対象園	配布数	回答園数 回収率	回答者数（総計）	回答者役職内訳			
				園長	副園長、主任保育士等の 管理的又は指導的立場	年長児 クラス担任	その他
認可保育園・ 認定こども園	722	634 87.8%	1,773人	572人	529人	609人	63人

4 アンケートの種類及び設問数

（1）共通用（設問35項目） （2）年長児担任用（設問7項目）

5 結論

新潟県の保育者から、子どもの姿勢に関する懸念など、幼児期の「運動遊び」の取組の実態について様々な知見が得られた。楽しく体を動かす「運動遊び」の普及・啓発するためには、保育者の運動遊び指導・援助の時間確保、幼児期の運動に関する知識と指導力の向上のための機会を設けることが必要であり、そのためには総合型地域スポーツクラブ等との連携が有効であると思われる。そのような好循環を生み出すために、市町村が主体的に、保育園や幼稚園・こども園と総合型地域スポーツクラブ等が連携・協働し、運動遊びを推進できる環境を整える取り組みが求められる。

6 調査結果の概要

新潟県の保育者から幼児期の「運動遊び」の取組の実態について、以下の知見が得られた。

○「子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしについて気になること」について

51%が「姿勢が悪い（座っているとき、立っているとき、歩くときなど）」、「気をつけなど、同じ姿勢を保てず崩れてしまう」ことを懸念している。（図1）

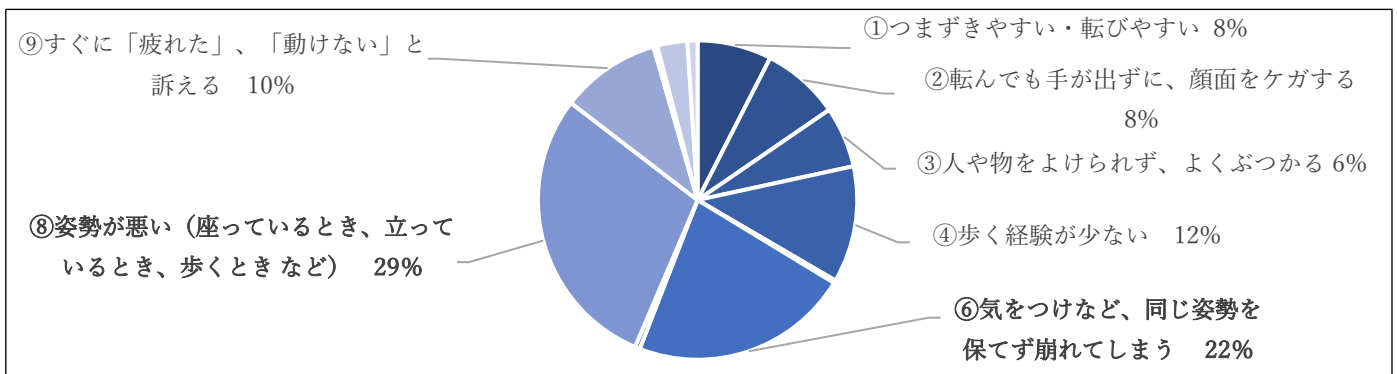


図1 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（総計）＜報告書P5 図2-1-1＞

○「保育に『運動遊び』を取り入れにくい要因」について

「他に優先してやるべきことがあるため」、「遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため」、「時間の確保が難しいため」が、ほぼ同じ割合であった。(図2)。

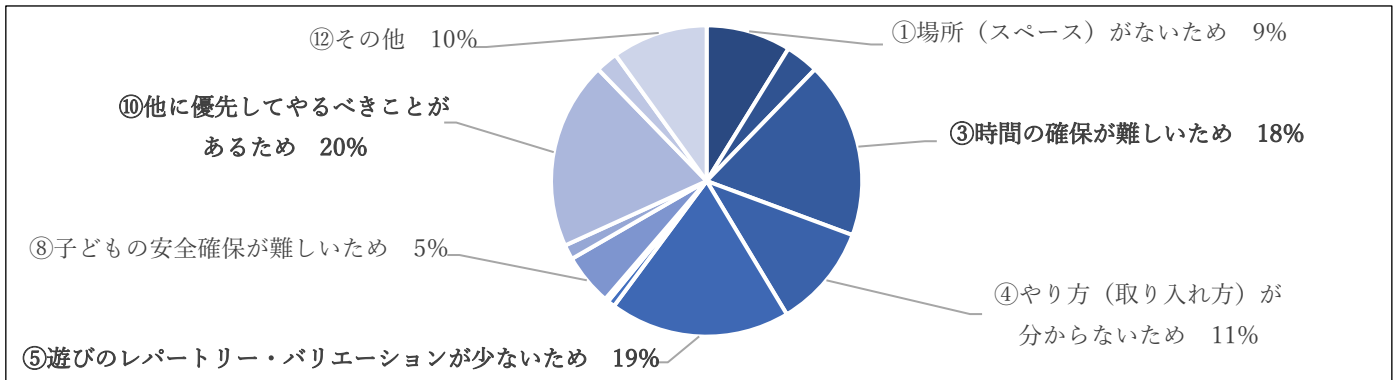


図2 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因(総計) <報告書 P12 図4-1-1>

○「自分の園での『運動遊び』の取組みに満足している」について<報告書 P48 図23-1>

45%が「どちらともいえない」と回答した。

○「保育に『運動遊び』を取り入れる目的(ねらい)」について<報告書 P17 図5-1-1>

58%が「体を動かす楽しさ, 心地よさの実感」と回答した。

○「保育に『運動遊び』を取り入れる上での課題」について

「発達の特성에 応じた遊びの内容」、「一人一人の個人差, 発達に 応じた援助」、「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」が、ほぼ同じ割合であった。保育者自身の運動遊び指導上の課題として、体育指導の力量(評価の視点)、運動発達の評価と運動遊びの効果、遊びの創造力が挙げられた。

なお、担任では「遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ」が最も多かった。(図3)

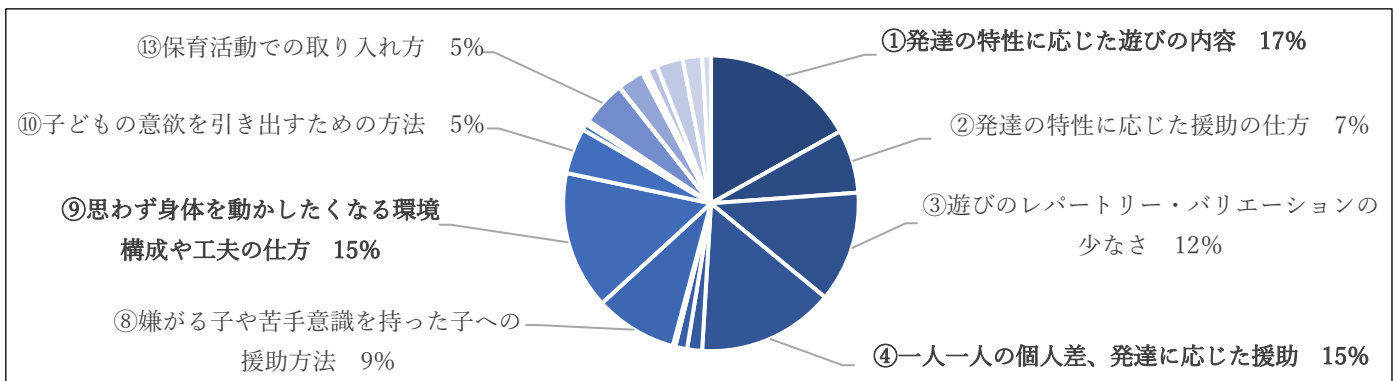


図3 保育に『運動遊び』を取り入れる上での課題(総計) <報告書 P22 図6-1-1>

○「子どもの頃(小学生の頃まで)、『外遊び』をしていた」について<報告書 P32 図11-1>

97%が「外遊びをしていた」と回答した。

○「子どもの頃(小学生の頃まで)、放課後や休日に、どこでよく遊んでいましたか」について

<報告書 P49 図24-1-1>

主な場所はグラウンド, 校庭, 公園, 空き地, 神社・お寺の境内, 道ばた, 川, 池, 林, 田畑と自然の中が多かった。

○「子どもの頃（小学生の頃まで）、放課後や休日に、どのような遊びをよくしていたか」について

遊ぶ内容は役職間での差はなく、鬼ごっこや遊具を使った遊びが多い傾向にあった。また、担任の保育者は、自転車等の道具を使用した遊びが多い傾向にある。一方、園長や副園長・主任は、自然環境で遊ぶ経験が担任よりも多い傾向にあった。テレビ、ビデオ、DVD等を見る、テレビゲーム、携帯ゲームを行うものは、ほとんどいなかった。（図4）

子どもにも年々変化があり、保育者が働きかけないと体を動かしたがない、動かしてもすぐに飽きてしまうなど、「運動遊び」を継続して行えない子どもが増加しており、段階的指導による過程の満足感の経験が必要であり、現代社会の影響による遊びの変容を踏まえた幼児期に必要な運動遊びが求められている。

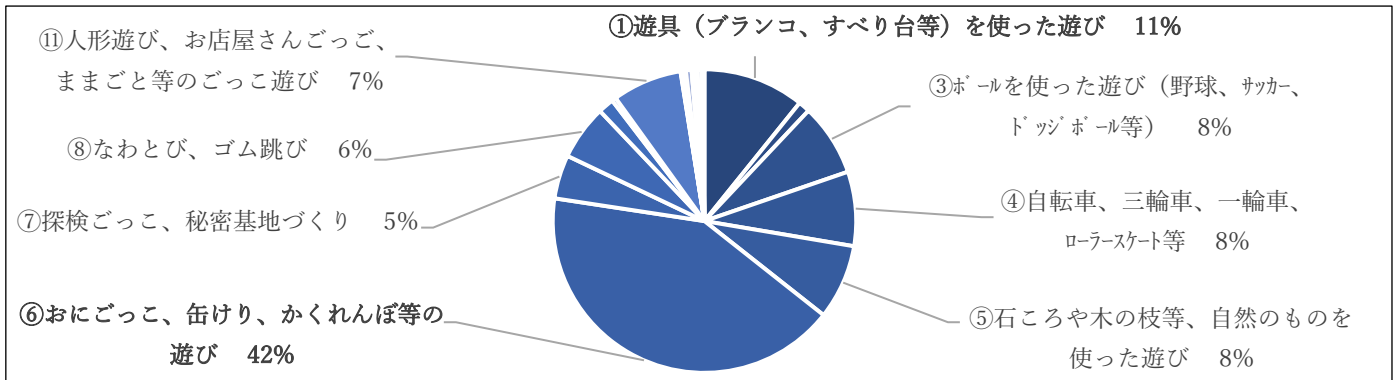


図4 子どもの頃、放課後や休日によくしていた遊び（総計）＜報告書 P54 図 25-1＞

○「運動遊びについて、身近な場所で学ぶ機会がある」について＜報告書 P45～46 図 21-1～21-4＞

48%の担任が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答した。なお、園長、副園長・主任に比べて担任は「機会がない」と感じている。

○「運動遊びについて機会があれば学んでみたい」について＜報告書 P46 図 22-1＞

79%が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した。

○「年長児の基本的な動きの実態」について

頻度が低い「基本的な動き」は少ない順に、こぐ・操作 (1.7), 這う・移動 (2.3), 転がる・バランス (2.4), 回る・バランス (2.4), 引く・操作 (2.4), (下位5位まで)であった。「基本的な動き」の出現について、問うたが、日常保育で見られるものの姿勢が崩れており、正しい動きではない、と判断している保育者が見受けられ、「幼児の姿勢」、「基本的な動き」においても正しい姿勢と動きへの意識の高さが伺えた。（図5）

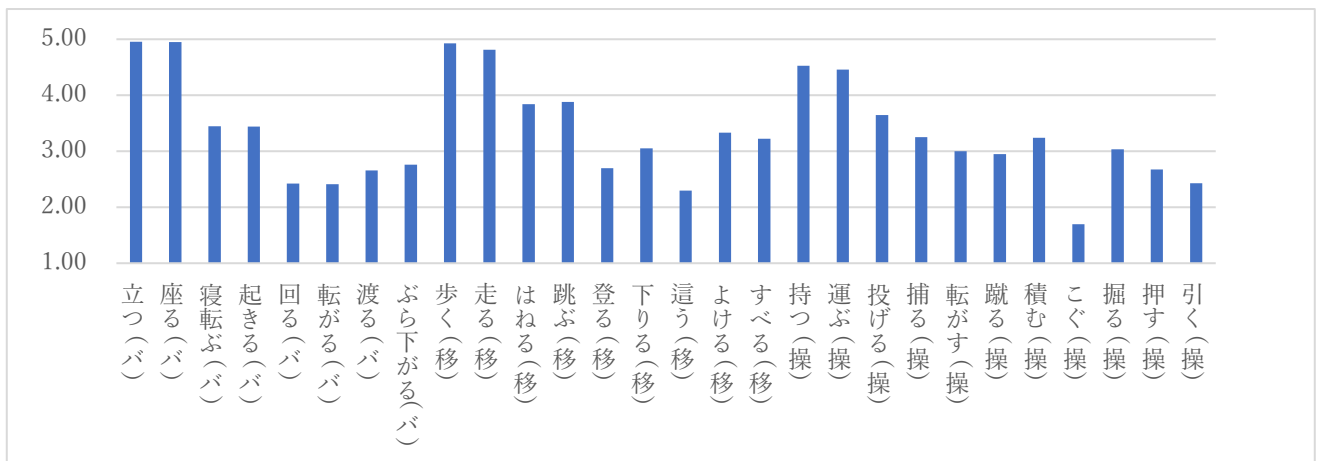


図5 新潟県年長児の基本的な動きの出現頻度-年長児担任の保育者による評価結果-
＜報告書 P57 図 29＞

○自由記述について〈報告書 P58～60 図 30〉

保育者が置かれている状況や見方・考え方を理解するために、自由記述から得られたデータを質的研究方法によって分析し、繰り返し現れる現象をコード化、可視化したものを図6に示す。得られたカテゴリーは、「保育者自身が感じる運動遊び指導上の課題」、「子どもを取り巻く環境の変化」、「保育園を取り巻く社会情勢の変化」、「保育園と総合型地域スポーツクラブ等の連携」であった。

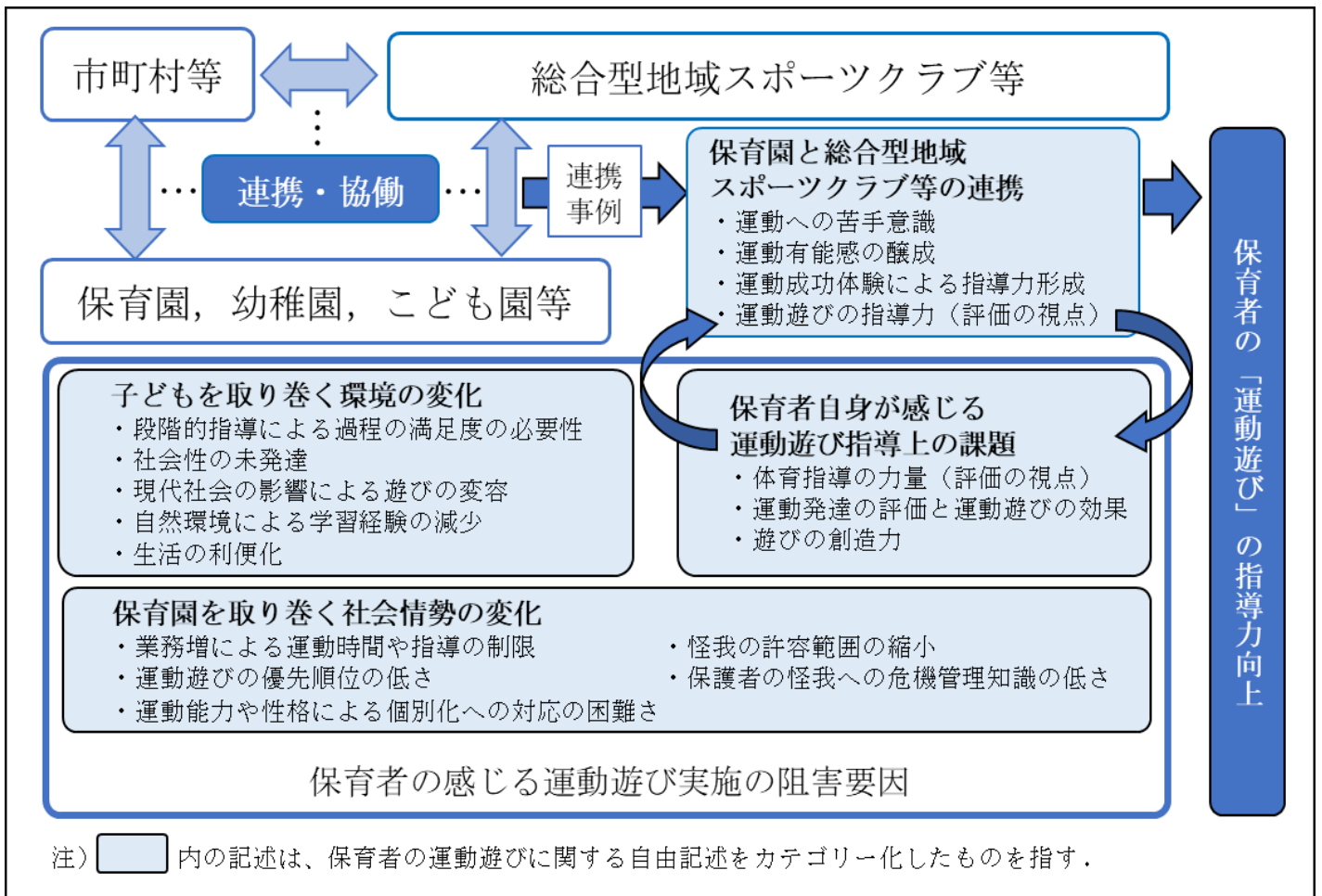


図6 自由記述のコード化による運動遊びの阻害要因と指導力向上相関図

※保育現場における「運動遊び」の取組に関する実態調査実施報告書は、新潟県広域スポーツセンターウェブサイト (<https://www.niigata-sports.net/>) でダウンロードできます。

令和元年度幼児期からの運動習慣アップ支援事業（新潟県委託事業）
 保育現場における「運動遊び」の取組に関する実態調査実施報告書（概要版）
 令和2年4月1日
 公益財団法人 新潟県スポーツ協会
 〒950-0933 新潟市中央区清五郎 67 番地 12
 デンカビッグスワンスタジアム内
 TEL025-287-8600 FAX025-287-8601